

平成 25 年度 第 3 回日進市男女平等推進審議会 議事要旨

開催日時 平成 26 年 2 月 17 日 (月) 午後 6 時 30 分～8 時 00 分

場 所 南庁舎 第 5 会議室

出席委員 吉田あけみ、山田尚武、吉田真砂、佐藤正彦、若杉秀行、安形典子、水谷有志、
小川悦子、鶴田恵子、越智久美子、下野房子、棚瀬和美 (敬称略)

欠席委員 大畑美和子 (敬称略)

事務局 水野和秀 (市民生活部長)、杉浦敏 (市民協働課長)、杉田武史 (同課長補佐)、
森部江美 (男女平等推進係主査)、村田修子 (同主任)

傍聴の有無 有 (1 名)

議事及び発言内容

発 言 者	内 容
	1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 傍聴希望 1 名あり。傍聴者入室 4. 資料の確認 5. 議題
会長	(1) 男女平等に関する市民意識調査について 事務局より説明をお願いします。
事務局	本市では平成 27 年度に第 2 次男女平等推進プラン (以下プラン) の中間見直しを行いたいと考えております。 その事前調査として、26 年度に市民意識調査を予定しております。 今後 2 年間の限られた時間の中で、プランの中間見直しと DV 基本計画の策定の 2 つを行うため、少しでも早く意識調査を実施し、その結果を検討したいと考えております。そのため予算成立前ではございますが、意識調査の項目等について、今回委員の皆さまにご検討いただき、26 年度には速やかに調査に着手したいと考えております。 調査の詳細につきましては、これからご説明いたします。

発 言 者	内 容
事務局	<p>それでは、市民意識調査の内容についてご説明いたします。</p> <p>(資料の一部差し替え、訂正)</p> <p>市民意識調査の趣旨及び対象、実施方法、設問数等について説明。</p> <p>DV 基本計画策定の必要性と本市の現状等について説明。</p> <p>内容、分析方法及び用語解説は調査票に含めないことについて説明。</p> <p>資料(1) 調査票の設計について</p> <p>(2) 男女平等に関する市民意識調査</p> <p>(3) 設問比較一覧表(案)</p> <p>(4) 本市におけるDV(防止)基本計画について</p> <p>前回調査との比較が正確にできるよう、継続設問に関しては内容、選択肢等は原則そのままとしておりますが、事務局では一部の設問の選択肢が分かりにくいので変更してはどうかという意見もでています。</p> <p>また、同設問では用語を聞いていますが、「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」のように括弧内に説明を記述している項目もあるため、設問の趣旨から説明部分は削除してはどうかという意見も出ました。ただし、継続設問であるため、大幅に変えるのはどうかとも考えておりますので、併せてご審議いただければと思います。事務局からは以上です。</p>
会長	<p>今の事務局からの説明を踏まえ、何かご提案、意見はありますか。</p> <p>同設問に関しては、原則「前回調査から設問、項目、選択肢とも変えない」ということになると思います。変えてしまうと正確な比較ができません。</p> <p>ちなみに内閣府の調査項目では「ポジティブ・アクション」の和訳は「積極的改善措置」ではなく「積極的<u>差別</u>改善措置」となっていませんか。</p>
事務局	<p>内閣府調査でも「積極的改善措置」となっています。</p> <p>内閣府の調査では、本市と設問の構成が異なり「見たり聞いたりしたことがある項目全てに丸を」となっています。</p>

発 言 者	内 容
委員	<p>用語の項目についてですが、言葉を知っていることが分かれば十分なものと、意味や内容も知っていることが重要なものが混在していますし、「意味を知っていたか」と聞くのに少し違和感があるものもあります。</p> <p>項目をグルーピングし、聞き方を変えてはどうでしょうか。</p>
委員	<p>新規に追加した項目で違和感があるものは削除してもいいのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>分かりました。</p>
会長	<p>PRしたい項目があれば、それだけの設問を調査票の最後に設けてはいかがでしょうか。</p> <p>また、用語解説は調査票には載せないとの説明がありましたが、配布資料には記述があります。これはなぜでしょうか。</p>
事務局	<p>事務局で検討した際、調査票の最後に用語解説があると正確なデータが得られないのでは、という意見があり、削除しようという方向に至ったものです。</p>
会長	<p>前回と比較するのであれば、全体の体裁も含め変えるべきではないと思います。</p> <p>また、本調査の目的が、男女平等に関する市民の意識を知ることと、啓発の2つにあると考えるのであれば、用語解説はあったほうが良いと考えます。</p> <p>他市町では、用語の知識を尋ねる設問と同じページに解説が入っている調査票もあり、それはさすがにどうかとは思いますが、本調査票は一番後ろのページでの記載なので大きな影響はないと思われます。</p>
事務局	<p>本調査に啓発の意味はぜひ持たせたいと思いますので、用語解説は残します。各項目のグルーピングについては、設問の体裁が変わりますがいかがでしょうか。</p>

発言者	内容
会長	前回との比較ができなくなりますので、そのままの方がいいかと思いません。
委員	3つの各選択肢の定義づけを、どこかに入れてはいかがでしょうか。
会長	すると前回調査には無かったその各選択肢の定義づけが加わることになるので、やはり正確なデータが得られなくなると思います。
委員	回答する人の判断に任せるとのことですね。
会長	用語の設問については前回調査のままということではいかがでしょうか。
委員	その方が良くかと思えます。
会長	次に各調査項目の追加や削除についてですが、資料3を見ますと、セクシュアル・ハラスメントとパワー・ハラスメントについての設問を削除しているようです。これについて説明していただけますか。
委員	<p>資料3だけではなく、21年度の調査票も見てみたいと思いました。17年度の調査時に関わらせていただきましたが、設問数は大分削除され、答えやすくなった部分もあるかと思いますが、気になる点もあります。</p> <p>例えば、17年度では「夫婦別姓」や「子どもの育て方の理由」について尋ねる設問がありました。元々、男の子でも女の子でも、本来育てたい人間像に大きな違いはないはずですが、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てたいか」と聞かれると「そう思う」と答える方は未だに多いと思いますので、理由を聞く設問は必要ではないかと思いました。</p> <p>また、DVの加害者側用の設問もありました。そういう調査は大変少ないので、残したほうが良いと思いますが、21年度から削除されたのはなぜでしょうか。</p>
事務局	17,21年度とも、調査項目については委託業者を含めて検討していると思いますので、他市町を参考にしたり、時代背景や当時の話題性のある内容を取り入れたりしたことは考えられます。今回の案を作成する際にも、昨今の動きを考慮しています。

発 言 者	内 容
	<p>夫婦別姓についても、当時は注目度が高かったのではないかと思います が、設問数にも限りがございますので、今回はDVなどの項目に重きを置き たいとは考えています。</p>
委員	<p>今回は36項目を予定されていますが、17年度から21年度についても、回 収率を上げるなどの理由から設問数を減らすなどの動きはありましたか。</p>
事務局	<p>過去の議事録によると、回収率を上げるための検討は確かに行っているよ うです。</p> <p>また17年度の調査結果は小数点以下を四捨五入しているため、正確な数 値での比較は難しいかもしれません。</p>
会長	<p>基本的には21年度も、前回の調査内容を踏襲する方向で検討していると 思いますが、回収率を上げるために項目数を減らしたかもしれません。</p> <p>21年度に調査していない項目でも、17年度との比較は可能なので、前後 の設問に影響が少なく、有意義であれば17年度の設問を追加してもいいと 思います。</p> <p>小数点以下の数値がなくとも、ある程度傾向の把握は出来るかと思いま す。</p>
委員	<p>できれば21年度の調査結果報告書を見たいと思います。</p>
会長	<p>17年度の調査項目を含めて検討したほうがいいのかもかもしれません。</p>
委員	<p>回収率も気になりますが、今はDV加害者の心理や更生プログラムも問題 になりつつあります。被害者が逃げても加害者が更生できないと同じ被害が 繰り返されてしまいます。加害者の更生プログラムに取り組むNPOも増え ていますし、加害者側の心理を聞くのは、これからの時代に合うと思います。</p> <p>またDV関連の設問で選択肢に違和感があるものがあります。</p> <p>「お金を取り上げられたり、預金を勝手におろされる」とありますが、お金 を持っていることを前提としている気がします。実際には、被害者は決めら れたお金しかもらえず、預金は全くないということがよくありますので、「お 金の使い道を厳しく制限されている」などの方が良いかと思えます。</p>

発 言 者	内 容
委員	そう思います。「生活費をもらえない」などの方が一般的だと思います。
会長	この設問は新規ですか。
委員	17年度にもありましたが、「生活費を渡されなかったり、使い道を細かく監視される」となっています。
事務局	21年度にもありましたが、今回は配偶者やパートナーからのDVだけでなく、デートDVの項目も追加したため、新規扱いとしました。
会長	DVとデートDVの設問を同じ内容にするため、このような記載になったということでしょうか。 設問項目の趣旨に合っていれば、17年度のような表現でもいいと思います。
事務局	分かりました。
会長	修正したアンケートを基に、再度本審議会で調整する時間的余裕はありますか。
事務局	ございます。
会長	それでは、21年度の調査設問を原則踏襲しながら、17年度の調査及び内閣府などの調査内容にも配慮した案を事務局で再度作成するということをお願いします。特にDV加害者に関する設問、子どもの教育についての設問、経済的DVに関する設問の表現等は配慮をお願いします。
事務局	分かりました。
委員	17, 21, 26年度の調査項目の対照表を作成するということでしょうか。
会長	必ずしも対照表が必要とは限らないと思いますが、17年度の内容も配慮して修正案を作成していただきたいと思います。
委員	職場での休暇等制度取得の設問の「制度がなかった」の選択肢ですが、これは育児・介護休業法が整備されていなかった頃に勤めていた方のための選択肢ということよろしいでしょうか。実際には、法整備後の方の回答を抽出されると思うのですが。
事務局	そのとおりです。

発 言 者	内 容
委員	<p>もうひとつ、性に関する言葉を聞く設問ですが、選択肢は女性特有のものだけではなく、男性にも関係するものがあるにも関わらず、「女性の性に関する言葉」と表現されています。</p> <p>非常に違和感がありますので「女性の」という言葉は削除してはどうでしょうか。</p>
会長	<p>この設問は新規ですので、設問自体削除してもよいかと思いますが、内閣府などの調査にある設問でしょうか。</p>
事務局	<p>内閣府の調査にはない設問です。</p>
会長	<p>事務局で聞きたいと考えて設定された質問であれば、本審議会の判断によっては削除してもよいかと思いますがいかがでしょうか。</p>
委員	<p>設問自体は残してもいいと思いますが、「女性の」と強調しているのが気になります。「産後うつ」なども、当然男性も知っておくべきことだと思います。</p>
委員	<p>その言葉が女性の性や体に関するものかどうかということではなく、男性も知っておくべきことだということですね。</p>
会長	<p>それでは、設問自体は残し、「女性の」という言葉を削除するというところでよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>(了承)</p>
事務局	<p>そのようにいたします。</p>
委員	<p>平日の家事・育児・介護に関わる平均的な時間を聞く設問がありますが、休日については聞かないのでしょうか。</p>
委員	<p>内閣府調査でも家事関連時間と育児時間を分けて調査していますので、比較するのであれば分けた方がよいかと思います。</p>
委員	<p>過去の日進市の統計調査でも、炊事・掃除・洗濯・家計は圧倒的に女性が担っていますが、乳児の世話・介護は男性も手伝っているという結果も出ていますので分けた方がいいと思います。</p>

発 言 者	内 容
会長	細かく言うと、家事もちろん一種類ではありませんので、本来は分けるべき設問だと思いますが、設問数が膨大になってしまうためにまとめたのだと思います。
委員	育児についても、「お父さんは子どもと遊んでくれるけど、おむつは替えてくれない」などの話もよく聞きます。
委員	家事・育児・介護の3種類に分けることは出来ると思います。
会長	内閣府調査との比較のために設定した設問であれば、確認していただき、それと同じとしてはいかがでしょうか。
事務局	確認して検討します。設問の趣旨としては家庭での役割分担を知ることですが、平日と休日に分けた方がいいでしょうか。
会長	平日の設問のままで良いと思います。国際比較をするのであれば、通常平日の家事・育児時間を聞いていると思います。
委員	セクハラ・パワハラの設定の削除についてはいかがでしょうか。大切な問題との認識があるのであれば、設問はあった方がいいと思います。労働現場ではセクハラ・パワハラの問題意識は依然高いと感じています。
会長	セクハラは以前よりかなり周知されてきていると思いますが、パワハラ注目度は逆に高まってきているかもしれません。 あえて削除した理由があれば聞かせてください。
事務局	今回の調査票の案を作成するにあたり、23年度から25年度に他自治体で実施された調査を参考にしています。その結果、パワハラに関する設問はありませんでした。また、セクハラに関する設問も2自治体しかなく、1問だけでした。そのため設問数の関係もあり、今回は削除したものです。
会長	セクハラ・パワハラの実験の有無を聞く設問はあってもよいかもしれません。
委員	職業上、労働相談を担当していますが、セクハラ・パワハラの問題は多いという感覚があります。特に不景気な時はセクハラ・パワハラが多く、深刻になる傾向があります。

発 言 者	内 容
会長	<p>事務局はこれらのご意見を参考に、次回までに検討してください。 再度これまでのご意見を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原則、21年度の調査を踏襲した設問や選択肢とし、内閣府や17年度の調査も参考とする。 ・ 今回各委員から挙げられた提案や意見を尊重し、再度調査票の内容を検討して、次回の審議会までに修正していただく <p>ということよろしいでしょうか。</p> <p>また、DV基本計画については単独で策定するのではなく、27年度のプランの中間見直しに合わせて分野別計画とする、という報告でよかったですでしょうか。これに関し、何か審議する必要はありませんか。</p>
事務局	<p>中核市以上の大きな市では単独計画として策定されているようですが、県にも確認した結果、本市はプランに性格を持たせる形で考えております。</p>
会長	<p>プランの中間見直しで検討することとなると思いますが、方向性としてはそのような形ということですね。</p> <p>委員の皆さま、よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>(了承)</p>
会長	<p>それでは事務局には、これまでのご意見を基にして作業を進めていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。事務局からも確認をお願いいたします。</p> <p>先ほど、子どもの育て方の理由を追加しては、というご意見をいただきましたが、自由記述欄の追加ということでしょうか。今回は選択肢とし、自由意見欄は全設問の最後に多めに枠を確保しようと考えています。</p>
委員	<p>17年度は選択肢で2つまで選ぶというものでしたので、同じでいいと思います。</p> <p>個性の大切さを分かっているけど価値観に捉われてしまう理由が分かるとよいかと思います。</p>

発 言 者	内 容
会長	事務局には 17 年度の設問をよく確認してもらい、再度検討をお願いします。また、「子どもに身につけて欲しい」と思う項目の選択肢では、ほかの項目にもあるように、特に重要だと思うものに二重丸をつけてもらおうと良いかもしれません。
事務局	今回ご提案いただいた内容と設問数との兼ね合いも含めて検討します。
委員	夫婦別姓の設問はいかがでしょうか。
事務局	21 年度の調査項目にはなく、現在の社会の流れでいいますと、DVなどが取り上げられることが多くなってきています。
会長	啓発という意味でも、聞いておいたほうがよい場合もあります。設問については今後事務局で精査をお願いします。
事務局	分かりました。
会長	次の議題に移りたいと思います。 (2) その他について 事務局より説明をお願いします。
事務局	(2) その他 1 点目、12 月 7 日開催「第 5 回にしんハーモニーフェスタ」開催報告。 資料（5）第 5 回にしんハーモニーフェスタ来場者アンケート集計結果等 生活安全課主催「人権を考えるつどい」と同時開催。来場者 550 名。来場者アンケートでも大変好評でした。 第 2 回審議会で審査いただいた男女平等推進川柳・標語の入賞作品表彰式も実施。吉田会長には講評も頂きました。 開催実行委員や来場者として委員の皆さまにもご協力いただき、大変ありがとうございました。 2 点目、「は一もにしん」第 13 号を 3 月号広報と同時全戸配布の予定。 完成次第、各委員宛に郵送予定。

発 言 者	内 容
	3 点目、男女平等学校教育研究事業について。現在北、南、香久山小学校で実施中。実施成果は来年度の審議会での研究集録を配布予定です。
会長	議題(2)及び全体を通しての質疑、意見なく閉会を宣言。(20 : 00)